

# 学校風土の多面的評価に向けた質問紙作成の試み

栗栖 唯伽里 (和歌山県中央児童相談所)

寺坂 明子 (大阪教育大学 総合教育系)

## 問題と目的

不登校児童数が増加を続けている現状を受け、文部科学省(2023)は「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」のなかで、学校風土の見える化による魅力ある学校づくりを推奨している。しかし、日本国内での学校風土の測定に関する研究はまだ少なく、学級風土の側面が実証的に明らかにされていない。

そこで本研究では、学校風土を多面的に捉えることのできる質問紙を作成することを目的とした。

## 予備調査

### 方法

対象：近畿圏の大学5校に通う大学生176名

調査内容：Lewno-Dumdie et al. (2019)の学校風土の構成要素を参考に、EDSCLS (NCES, 2016), CSCI (NSCC, 2020), DSCS (Bear et al., 2011), SCM (Zulling et al., 2015), 新版中学生用学級風土尺度(伊藤・宇佐美, 2017)の項目を分類・整理し、複数の尺度に共通して含まれた下記11要素を測定する91項目を候補項目とした。

身体的安全	8項目	多様性の尊重・公平性	12項目
社会・情緒的安全	6項目	指導環境・学習支援	11項目
いじめ	6項目	物理的環境	9項目
規律・規則	8項目	学校への参加・つながり	8項目
生徒間の関係	9項目	保護者の関与	5項目
教師-生徒関係	9項目		

手続き：Googleフォームを用いたオンラインアンケートで、各項目について4件法で回答を求めた。

### 結果

探索的因子分析(最尤法, promax回転)の結果、「教師-生徒関係」「多様性の尊重」「いじめ・暴力」「物理的環境」「学校への参加・つながり」の5因子58項目が採用された。各下位尺度の $\alpha$ 係数は.85以上であり、十分な内的一貫性が確認された。

Table 1 性別ごとの学校風土の各側面間の相関係数

	教師-生徒関係	多様性の尊重	学校環境	いじめ・暴力	安心・安全
教師-生徒関係	-	.738 ***	.686 ***	-.255 *	.607 ***
多様性の尊重	.436 ***	-	.595 ***	-.389 ***	.677 ***
学校環境	.449 ***	.536 ***	-	-.284 *	.576 ***
いじめ・暴力	-.316 ***	-.344 ***	-.389 ***	-	-.295 *
安心・安全	.537 ***	.548 ***	.491 ***	-.319 ***	-

注) 上が男子 (n=73), 下が女子 (n=120)

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

## 本調査

### 方法

対象：近畿圏の公立高等学校1校に在籍する高校生208名(男性75名, 女性127名)

### 調査内容:

(1) 学校風土 予備調査の結果からさらに内容の重複する項目をまとめた50項目に、規則に関する2項目を加えた52項目

(2) 学校適応感尺度(大久保, 2005)のうち各因子に対する負荷量の高かった4項目, 計16項目

### 結果

#### 学校風土の因子構造

- 探索的因子分析(最尤法, promax回転)の結果から、「教師-生徒関係」「多様性の尊重」「学校環境」「いじめ・暴力」「安心・安全」の5因子42項目が採用された (Figure 1)。
- 各下位尺度の $\alpha$ 係数は.79以上であり、十分な内的一貫性が確認された。いずれの下位尺度得点においても有意な男女差は認められなかった。
- 「いじめ・暴力」を除く各側面間の相関は概ね中程度であり、「いじめ・暴力」は男女ともに「多様性の尊重」との間に、男子では「学校環境」との間にも弱い負の相関が認められた (Table 1)。

#### 学校風土と学校適応感との関連

- 下位尺度得点間の相関は、「いじめ・暴力」を除いて全て有意であり、これは、測定された学校風土の構成概念の併存的妥当性を部分的に示唆するものであったと言える。
- なかでも「安心・安全」は学校適応感の各側面との関連が全体として高かった( $r = .49$  .76)。
- 男女で学校風土の認知と適応感との間に相違が見られ、女子では「教師-生徒関係」が適応感にとってより重要な意味を持つ可能性が示唆された。

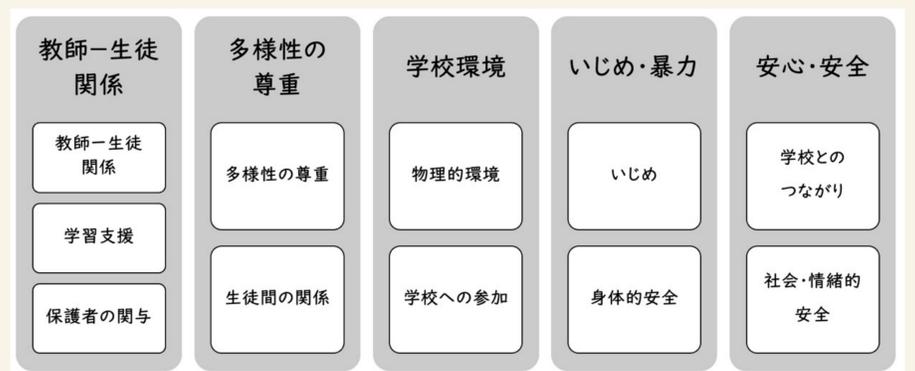


Figure 1 学校風土の各因子とその構成要素

## まとめと今後の課題

- 予備調査と本調査の因子分析結果から、「教師-生徒関係」「多様性の尊重」「いじめ・暴力」の因子が共通して抽出され、これらが学校風土の重要な側面であることが確認された。
- 男女ともに「いじめ・暴力」は「多様性の尊重」との間に弱い負の相関があり、多様性を尊重する風土を醸成させることがいじめの減少に寄与する可能性が示唆された。
- 複数の学校を調査対象とすることで学校風土尺度の因子構造が変化する可能性がある。本研究で作成した尺度によって捉えられる側面から学校ごとの特徴の違いを記述できるかどうかについても検討する必要があるため、複数の学校で多くの調査データを収集することが求められる。
- 本研究は高校の学校風土について調査を行ったが、不登校生徒の割合は中学生に多く、学校風土の改善は中学校でより大きな課題であると思われるため、中学校を対象とした学校風土の多面性の検討が求められる。